

第4回 宇部市石炭記念館あり方検討委員会 議事録

日時：令和5年8月21日（月）15：00～16：00

場所：宇部市総合福祉会館 2階 ボランティア交流ホール（大）

出席者

（委員）

大塚 義雄	内田 鉄平	吉武 善幸	脇 和也
古谷 博司	柳田 英治	藤永 徹也	真宅 裕一
藤川 修三			

（宇部市）

観光スポーツ文化部長	富田 尚彦		
ときわ公園課長	東原 隆	同課副課長	浦田 佳宏
同課管理係長	小島健一郎	同課主任	西岡 優
同課係員	立花沙莉奈		

欠席者

（宇部市）

観光スポーツ文化部次長	白井 幸雄	同課学芸員	廣畑 公紀
-------------	-------	-------	-------

（委員）

岡松 道雄	福岡 俊昭	平井 貴大	倉重 圭亮
-------	-------	-------	-------

《第4回会議》

1 委員長による開会あいさつ

(委員長) 今回で4回目の会合という事で、率直な意見を交わす最後の機会となります。提言書の事務局案について忌憚のない意見を交わして行きたいと思っております。よろしくお願いいたします。

2 会議

(事務局) これ以降の議事進行につきましては、委員会設置要綱第5条第1項の規定により、委員長が議長になることとなりますので、委員長にお願いいたします。

なお、本日の会議ですが、委員13名中、出席委員が9名で、過半数に達しておりますので、設置要綱第5条第2項の規定により、本会が成立していることを、ご報告申し上げます。

それでは、委員長、お願いいたします。

(委員長) それでは、次第の2の議題に移りたいと思っております。説明を事務局からお願いします。

(事務局) 資料「宇部市石炭記念館のあり方に関する提言書（案）」の「1 検討の背景と目的」及び「2 施設の現状と課題」の説明を行う。

(委員長) 今説明があった部分については、過去3回の議論を忠実にまとめていただいていると思っております。これについて、ご意見はありますでしょうか。

(委員) 入館者数の推移をみていると、石炭記念館自体の魅力に対して推移しているのではなく、ときわ公園のイベントなど外的要因によるところなのではないかと感じる。そう考えると、ソフト面ではイベント実行委員会との連携を図るのも良いのではないだろうか。

(事務局) 今の意見について、追記させていただきます。提言書の後述の部分に含む予定です。

(委員長) これだけの企画を行うなら、今後、石炭記念館が長寿命化や建替えなり行われた後に、それを評価する市民組織があったほうが良いのではないかと。

(委員) これだけの企画なら、客観的に見れる組織があったらいいと思う。

(委員長) 動物園のように、第三者の立場から事業を評価するものがあるのが望ましい。

(委員) ハードにもソフトにも絡む話だと思うが、予算の確保についても課題として触れるべきではないだろうか。

(委員) 将来の運営主体のあり方について。活性化には運営主体も関わってくると思うので、民間事業者が運営するというのもあるのではないか。

(委員長) 非常に革新的な意見だと思う。その部分が無いとモノは動かない。

(委員) 先ほどの別の委員の話と少し関わるが、例えば文化庁からの補助金等を探っていくやり方もあるのではないだろうか。今、全国的に注目されている文化財保護活用地域計画というのがある。石炭記念館の中の資料をうまく活用するにあたり、県の教育委員会が窓口になっているのだが、最低6割補助になっている。この手段が正しいという事ではないが、提言書の中に何かしら国などから補助金を獲得していくというのも入れた方がいいのではないかと思う。

(事務局) まず、公共施設は指定管理者制度を取り入れている。ときわ公園については、全体的な運営主体をどうするかというのは長期の課題となっている。ここも含めて大きな視野で考えていく必要があるため、取組の方向性の中に運営主体の検討を入れさせてもらう。

また、予算の確保についても、市だけの予算で施設改修や新たな展示品の設置など、委員の言われたとおり国の予算を取って行かないと難しいと考えている。

(委員) 完全に市の運営ならば、企画運営費用は市の予算から出ることになるとはいえ、全てを第三者に任せて、収支決算で上手くやってくれという事なら、石炭記念館では難しいのではないか。

そうすると、来館者数を指標に、貸館をしてその収支決算だけを第三者にお任せする形にするのはどうだろうか。

そうすればイベントで人が入るので、入館者数としては確保できる。委託先から事業計画を出してもらうので、各イベントの必要経費は市が用意する。

ただ、石炭に関係のないイベントが開催される可能性もあり、本来の目的がずれてしまう不安もある。人を集めるのは難しい問題だが、市が

後援してイベントをしたり、委託先企業の収益が発生するなど、そういった手段を使っても良いのではないだろうか。

(委員) 今、全国的に運営体制は市の直営か、指定管理か、公益財団法人の3パターンがある。提言書に入れるかは別だが、文化創造財団は公益財団になっているし、今後の運営次第でそういう手段も考えて良いのではないか。

(委員) 収益が出ないように寄附を集めて、集まったお金を事業費にするという手段もあるのではないか。寄附を集めてはいけないのか。

(委員長) 公益法人化すれば問題ない。
一番多いのは公益財団法人。常時寄附を受けられるようになる。

(委員長) さきほどの話で、確かに、入館者が多いに越したことはないが、必ずしも、入館者を増やすことが価値の創出ではない。
石炭記念館は、普通の施設と違い、入館者数が増えた、収益が上がったというものとは違う。
やはりそこは、公設公営というフレームの中での議論になるかと思う。

(事務局) 「3 石炭記念館のあり方に関する提言」について説明する。

(委員長) 今まで議論してきたものを4つずつにまとめてもらい、分かりやすくなっていると思う。皆様のご意見を伺いたい。

(委員) 予習して読んできたが、中身が薄いように感じた。大前提、解体ありきではなく残すという事で良いのか。残すのなら、ときわ公園全体も含めてハード・ソフトともに持続的に整備し、改善していこうと最初に述べた方がいい。

また、石炭記念館は空港を利用する時にも見えるので、宇部市のランドマークになっていると思う。7月28日にしばふ広場で学生たちの発表があったが、その中には周辺道路を整備する案もあった。持続的に整備するという話では、その時に「時間がかかるかもしれないがやっていけないといけない」という話もあった。ただ提言書を出して終わりではなく、未来を見据えているという事が分かる提言書にしたい。

(委員) 先ほどの意見と関連するが、委員会初回の時に宇部市からの資料で「石炭記念館改修に10億円かかる」という試算の資料があったと思う。これは建替えなのか、改修なのか、どういった扱いなのか。

(事務局) 改めて改修金額を出していきたいと思う。皆様からいただいた意見等を基に、今年中に基本構想を作っていく予定である。そこで整理して基本計画を作っていく中で、概算改修金額がいくらからいなのかをきちんと外に出していく予定。初回に提示した金額は工事の㎡単価で簡易に算出したものである。

(委員) 歴史や技術問題について。石炭記念館ではパネルを展示しているが、何が学べるのかが問題。小学生が見に来てわかるのか。今も続いている企業があるので、歴史に習うのではなく今日へ繋げているところがあるのではないか。パネルだけでは石炭記念館の意義が半分も伝わっていないような気がする。企業コーナーを作り、石炭産業が今に繋がっているんだとわかるような展示にすると、社会勉強に来た時に学べるのではないか。展望台が立坑櫓というのも、年配者ならまだしも小学生が見ても分からないだろう。それがもったいないと思う。

(委員長) 石炭都市を実感したのは実は企業。行政との兼ね合いが時代によって変化していった。たとえば地元企業(UBE)も、西暦2000年前後で宇部市とのあり方が全然変わってきたと思う。

(委員) 基本的にはそもそも石炭産業なので企業が起点だが、弊社(UBE)の立ち位置から言えば昭和42年にすべて閉山して次の産業へ移行したという位置付けになる。石炭記念館も、残すべき資産を残そうと閉山に前後して皆さんの寄附等で立ち上がったと理解している。

そのため、現在の石炭記念館のあり方の議論の中で言えば、未だに「企業」が前面に出るというのは、逆に未来が全然見えてないようなイメージに捉えられるのではないかと思う。企業はあくまでも過去に石炭産業を興したという立場である。

石炭は「過去の100年」だと思うが、石炭記念館は「未来の100年」がイメージできるような施設になるのが一番いいのではないだろうか。

(委員長) 大変柔軟な意見だったと思う。私も同感。他に意見はあるか。

(委員) 先ほどの委員の話で言うと、展示パネルだけでは分かりにくい、そういったソフト面で理解が増すようなものが改修していく中で生まれるだろうと思う。先日、石炭に触ったこともない山口大学の学生が、石炭記念館の将来像について発表された。要するに、炭鉱の町は暗いというイメージが無い世代になっており、それが逆に良いという話もある。そこも含めて、財産として宇部市の未来に継承していくように考えたらいい

のではと思った。

(委員長) 関係ない話だが、今朝の朝刊にユニクロの柳井社長のインタビュー記事が出ていた。ユニクロがいかに世界に飛躍していくのかという風を書いてあったが、記者の最期の感想として、原点になったのは衰退していった炭鉱の町、山口県宇部市を巣立ち、反面教師として世界のユニクロを作ったと書いてあった。高校生などがこの記事を読んだ時に、宇部とはこんなものかと思われないようにするには、石炭記念館の役割というのは大きいと思う。この1文で全国的に宇部の価値が評価されてしまうのを否定するには、地元からの強く情熱のある発信が必要であり、石炭記念館もその一つであると思う。

ところで事務局に質問だが、提言書の中で活かしてほしい屋上スペースの活用とアクセス経路の改善の2点は、「(3) 今後の取り組みの方向性」のどこに含まれるのだろうか。

(事務局) アクセス経路等については、言葉足らずではあるが施設の長寿命化の中に含めていくのが整理しやすいと思っている。

(委員長) また、長寿命化と言われると建替えではなく延命という受け止め方をしてしまう。課題の中では建替えというのがあるが、長寿命化も建替えに含まれるのだろうか。

(事務局) 現段階においてはそこまで明確な方向性が出ていないので、長寿命化の中には建替えが含まれる可能性もあると思う。

(委員) 提言書案に書いてある4つの役割とあるが、価値ではないかと思う。

では、この価値を高めるために今あり方を検討されているとすると、この価値ひとつひとつを上げていくために何をしなきゃいけないのか、何をしたらいいか、といったことが提言の具体性だと思う。

例えば観光資源としての価値は、今現在も決して小さくないと思っている。もちろん産業観光ツアーのすごいものもあるが、市外から久々に帰ってきた時の手頃な観光地としてときわ公園や石炭記念館に行ってみようとなる。価値を上げるためには、何が足りないのかを知るために、パブリックコメントを取り入れるのも参考になると思う。

(委員) 他の委員の話にもあったが、宇部市の歴史を語る上では石炭記念館は絶対に外せない場所だと思うので、更に充実させてストーリー性を持ってやるというのは個人的には大賛成。石炭記念館の価値創出という事で、観光用のものとなると遺産登録や文化登録というものが非常に欲しい部

分である。そうすると全国で非常に珍しい建物が残っていると全国的にPRしていける重要なファクターになる。
こういう形で価値を創出できないかと個人的に思っている。

(委員長) 宇部市には村野藤吾の建築がコンスタントに存在する。東京や九州からわざわざ見に来るといふ方もいる。それと同様に、石炭記念館やときわ公園を見に来るといふ観光的な役割も果たせるといふ。そういうアピールをする価値を石炭記念館自体が持つといふ事ですね。

(委員) 今の話に関連して、日本遺産の登録といふのも一つの観光資源の獲得であり、宇部市が申請することができるのではないかと。
そうすると、住んでいる市民の方々が改めてすごい施設だと価値を感じられる可能性もある。そういった意味でも、石炭記念館はその中心的な施設になりうるといふ。

(委員) しつこいようだが、文化にはお金がかかる。そのため、提言書の中にその部分を打ち出しておいてほしいと思ふ。何をやりたいかを明確にして市民の理解を得られれば税金を使ったっていいと思ふので、その辺りを分かるようにしてほしい。

(委員長) 今回の提言書案を読んでいると、一生懸命書いていただいたといふのは文章の端々で読み取れるが、起承転結がずれてしまい座り心地が悪くなっている。
また、石炭記念館をどうやって未来に繋ぐかといふ事が書いてあるが、肝心要の「石炭記念館が存在してきた/存在する意義」といふのがあまり触れられていない、つまり今の石炭がアンチ環境問題の旗手であるといふのを否定するような書き方をされていると感じる。それが他の委員が言われていた「訴えてくるものがない」といふのもそうではないか。そこで、事務局と話しながらか修飾を加えたり文章を整えさせてもらえたらと思ふ。

(委員) 自分が発言した部分について自分自身も伝わってなかったと感じるところがあるが、日本の石炭産業は山口県と九州と常磐、北海道の4つしかない中で、唯一地元企業でやっているのが宇部であった。その他は財閥系が絡んでいたために収支決算が合わなくなるとすぐ撤退されてしまった。現在まで続いている企業があるかといわれたら他にはない。地元の中で、財閥を通じずにやってきて、今日に繋がっている企業があるといふことを伝えたい。

(委員長) おっしゃる通りだと思います。その部分を訴える強さがないため、付け加えさせてもらいたい。

(委員) 言いたいことはほぼ言ってくれたが、石炭記念館からすると重要なのは学ぶことだと思う。子どもや中学生に言っても分からないという現状をどうにかしてほしいというのが一番の願いである。

(委員) 情報発信による認知度向上のところで、貴重な収蔵品がある事をアピールしたら認知度向上に繋がるのではと感じた。例えば市の事業等で石炭記念館を利用した事業を多くするとか、そういった形の方が認知度は向上するのではないだろうか。それと、すぐできることや、お金がないとできないことなどいくつか話が上がっていたので、ある程度提言書の中に書いていいのではと思った。

(委員長) 確かに、課題が提言書の中にどれだけ網羅してあるかが大事であると思う。

(委員) 多少お金はかかるが、石炭記念館だけのホームページを作ってしまうと外部の人が認知しやすいのではないだろうか。

(委員) 石炭記念館のページはときわ公園のサイトからのリンクだと思うが、イベントなどで華やかなときわ公園のサイトから石炭記念館のページに行くとサイトの雰囲気が暗くなるのが気になる。

(委員長) 今のは言いえて妙、それまでの議論に当てはまるようなところがあるように感じる。「(3) 今後の取組の方向性」について、ちょっと長くなって良いので課題を踏まえ、事務局と話しながら先ほどの話を入れてさせてもらえたらと思う。

以上で議論を締めさせていただき、今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いしたい。

(事務局) 「今後のスケジュール(予定)」について説明を行う。
提言書については、修正後のものを再度委員の皆さんに見て頂き、意見を頂戴できればと考えている。

(委員長) 全4回にわたって、熱心に参加してもらった。今日議論したことは、50年後の次の世代がどのように評価するかというところで、我々が試されるころだろうと思う。忌憚のない意見をたくさんいただき、非常に充実した、50年後の議論に耐えうる提言書になったと自負している。

以上で、第4回宇部市石炭記念館あり方検討委員会を終了します。事務局に進行をお返しします。

(事務局) 委員長、ありがとうございました。

皆様方には、4回に渡り忌憚のない意見をいただき誠にありがとうございました。

提言書については再度委員長と整理をして、皆様にお配りしようと思います。石炭記念館を残していく、未来に繋いでいくというのが私たちの使命であり、この提言書はその後押しになるものだと思っています。

これから基本構想、基本計画等をしっかり作っていき、最終的に改修するか新築するかという計画を作って行こうと考えておりますので、その節にはまた委員会を立ち上げることも考えています。

それと、評価が必要ではないかという事も言われているため、改修計画についての評価のご意見をいただく組織も立ち上げないといけないと思っていますので、その節に皆様にまたお声掛けする事があるかと思っています。

今までいただいた熱心な議論等は、事務局の方でしっかりまとめていこうと思います。どうもありがとうございました。